

材木屋とエコ 環境 省エネ(第79回)

日本に生まれて良かったと思う瞬間

(株)コバリン 奥澤 康文

【大宮第一公園の桜】 3月25日(日)午後に散策。風もなく暖かな晴天で、桜は七分咲き。桜の花を見る度、つくづく日本に生まれて良かったと思う。今冬は厳しい寒さだったが、3月の気温が平年より高く、桜の開花が過去3番目位に早かった。大宮公園は、「日本さくら名所100選」の一つで県内では最も有名。ソメイヨシノが多く、『学名(ラテン語)Prunus yedoensis Matsumura、ソメイヨシノ(染井吉野)、一名 ヨシノザクラ《吉野桜》、バラ科 サクラ属、大島桜と江戸彼岸の雑種、明治初年以後、東京から全国に広がる。名は江戸染井の植木屋名。』(園内の説明板より)

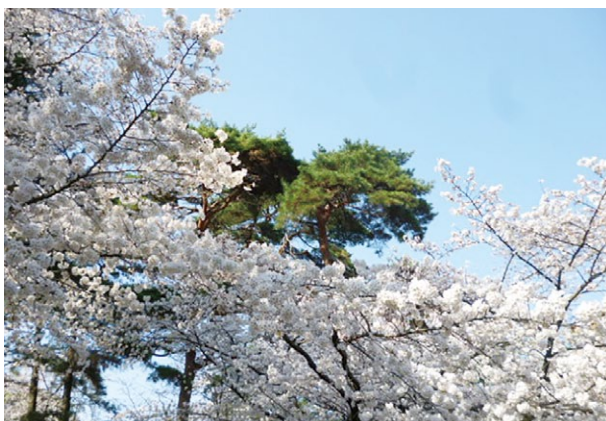
優雅で巨大な桜前線が、細長い日本列島を3~4ヶ月かけ、ゆっくりと沖縄・九州から北海道まで旅をする。大規模な桜並木や山桜から庭の1本の桜木に至るまで、木々夫々の自然な美しさがある。毎朝、テレビで全国津々浦々の桜の映像を見るのが醍醐味で、目の保養と心の薬になる。最近では、ドローンを使用した空撮版も増え、上空からの眺望も素晴らしい。



大宮氷川神社本堂。穏やかな晴天で人出も多い。鬱蒼とした杜に囲まれ、気持ちが落ち着き爽やかになる。



神社に隣接する公園内の桜並木。千本以上で迫力満点。元来、樹木好きだが桜には格別な想いがある。



背の高い赤松林の緑と桜の淡いピンクの対比がいい。普段は園内の松を眺める事はないが、この季節には必需品。



頭上には、カラス、鳩、雀等の鳥類もいる。私は、五分咲き位の桜が一番好き。概ね、ストライク!

【健康寿命】 3月9日、厚生労働省は平成28年度の健康寿命を発表した。ところで、健康寿命とは介護を受けたり、寝たきりになったりせず、健康的な期間を指すとの事。男性72.14歳(同年の平均寿命は80.98歳)、女性74.14歳(同87.14歳)。又、県別の県別上位5県は以下の通り。

男性	歳	女性	歳
山梨	73.21	愛知	76.32
埼玉	73.10	三重	76.30
愛知	73.06	山梨	76.22
岐阜	72.89	富山	75.77
石川	72.67	島根	75.74

前回、H25年時点の健康寿命は、男性71.19歳、女性74.21歳で、0.95～0.58歳延びた。記録のある15年前から延び続け、平均寿命との差が小さくなっているという。栄養管理や運動習慣が大切だと言う。言うのは易しいが続けるのが難しい。還暦(60歳)を過ぎる頃から、時々、体に変調が出始める為、「健康寿命」を意識するようになった。

【深川の名物甘味店】 3月30日(金)テレビ等で時々紹介される、人気の名店、「入り江」で昼食。さっぱりした「きし麺」と「いちごあんみつ」は定番で、久々の美味に納得。最近、テレビ等で健康番組が多く、「シニアも肉を食べ、元気を出して健康に！」とのアドバイスを良く見かける。先日の番組で、瀬戸内寂聴さん(95歳、作家、僧侶)が毎朝、ステーキを食べている姿に驚き説得力を感じた。又、当日は私の誕生日で、晩に帰宅すると、娘と孫が来ていた。夕食後、ケーキを囲み、にぎやかな一時を過ごした。風呂上がり、家族の為に健康でありたいと願った。



肉はなるべく食べるようにしているが、時折、さっぱりした少量の麺類や和食もいい。下町の情緒を感じる。

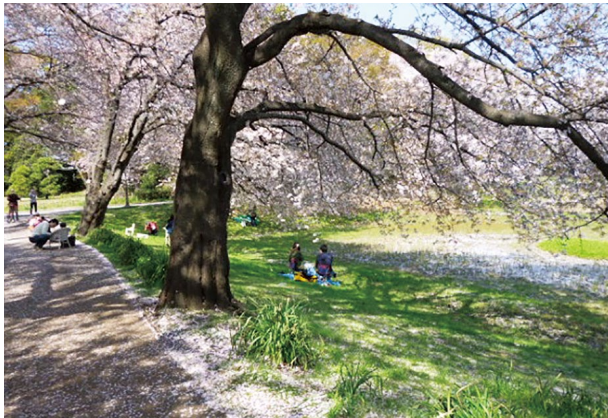


甘味もたまにはいい。門仲で働いて10数年、意外に近い場所に各種の名店があり嬉しく感謝です。

【美肌県グランプリ2017年】 若い時は肌のことなど気にもしなかったが、インターネットの世界では、随分と色々なグランプリがあるものだと思う。上位:1位 富山、2位 石川、3位 秋田。下位:3位 茨城、2位 大分、1位 群馬。群馬県出身の私としては、自分の肌を見ると頷ける気がする。

冬場(12月～翌年2月)の平均湿度が、富山県と群馬県とでは、20～30%差がある。群馬でも最近では名物の空っ風の日が減少。半世紀前の中学、高校時代には、強風の日には自転車をこぐのが大変で、土手の上から下の畑に吹き飛ばされた事も稀にあった。今では懐かしい思い出として蘇る。

【大宮第二公園の桜】 3月31日(土)午後、日頃の運動不足解消の為、先週末に続き、2回目の散策。天気も良く満開を過ぎた桜の木々に心地よい春風がそよぐ度、見事な「桜吹雪」が舞う感動的、しびれる刹那を満喫。2週連続の桜見物は初めて。1年に一度きりと思うと無性に見たくなり、先週末とは少し離れた場所へ、自転車で出かけた。よく観察すると、わずか数日の中で、七分咲きから満開を過ぎ、自然の息吹、躍動、砂時計を感じた。又、あんなにもゴツゴツした幹から、何と淡く可憐な花が咲くのだろうと不思議に感じた。尚、大宮公園の面積は、第1、第2、第3公園に分かれ、合計で73ha(東京ドームの約16個分)の県内有数の公園で、広く市民の憩いの場所になっている。



桜吹雪で地面や草むらが白い絨毯の様だ。ベンチに腰を下ろし、桜吹雪が自分の全身に降り注ぐのは嬉しく、感動的な瞬間。大人も子供も美しさに圧倒、魅了される。



少し高い土手から低い湿地方面を望む。6月、花ショウブ、アヤメが出現。沼の水面が桜吹雪で覆われ、陽光を反射し白く見える。ナイスショット！



太い幹に花をつけているものもある。樹木が好きな私は、この新芽に湧き出る活力を感じる。美しさの中に、強い生命力を感じ、心身が癒された。



右手に、「ひょうたん池」があり、大水の時の遊水地となっている。左手には、市の「グリーンセンター」。専門の樹木医やスタッフが管理している。

過日の新聞に、「もう一度読み直そう3冊の本」の見出し有。即ち、『方丈記』、『徒然草』、『歎異抄』。ああ、成程と頷く。高校当時、授業や家で少し読み強烈な印象を受けた。その後、時折、想起することあったが、普段は完全に忘却。静かな公園内のベンチで独り腰かけ、時折目を閉じる。春風に舞う美しい桜吹雪に感動を深める度、日常の雑念が洗われ気持ちがあすっきりする。



病気で弱った桜の木が伐採され、若い新芽の生命力に感動。今年はきれいに開花。我々も普段はガサガサした生活をしているが、ここでは老若男女が詩人になる。



淡いピンクの桜のそばで、眩しいほど白くきれいな「ゆきやなぎ」が一際輝く。まるで、「桜ばかり見ないでよ…」と言わんばかりのオーラ。

【幼稚園、保育園不足】 1～2年前、「保育園落ちた 日本死ね」という言葉が流行語になり、どこの誰の投稿か不明で、賛否両論が湧上った。しかし、今春、2歳に満たない孫が保育園を10数ヶ所申し込み全滅で大いに心配。結果的に、待った甲斐があり、1名欠員がでて上手く潜り込めたので胸を撫で下ろした。我々の若い時に比べ、住宅費の高騰、生活のレベルアップ等の理由で、共稼ぎが普通になっている。そうしなければ、生活ができない人が増えている現実がある。少子高齢化は、自分の身近な問題だ。50年後の日本は、今の人口の2／3になるとの統計学的予測もある。その頃は、のんびりした桜見物なんて過去の遺物になるかもしれない。

【激動する安全保障情勢ほか】 年明けから、東アジア情勢のパワーバランスに変化が発生。5月下旬、米朝の首脳会談が予定され、関係各国の事前の活発な水面下での交渉が始まったようだ。簡単に進展する内容ではないことは誰でも認識しているが、頭上を核ミサイルが飛び交うニュース等は見たくもない。平凡な日常が送れることを願うばかりだ。

さて、米国の首都ワシントンのポトマック川沿いで、今年は寒波の影響で開花が遅れたが、恒例の『全米桜祭り』が行われ約150万人が訪れるという。この桜は、1912年、当時の東京市の市長が、3,000本の桜を寄贈したのが始まりで、今では春の風物詩となっている。その時、米国側から、60本の「ハナミズキ」が東京に送られ、今でも残っている。毎年今頃、桜の国際交流の心温まる話題も楽しみ。

2018年4月8日(日)記